

中国語の語気副詞“可”の多義性とその音声的特徴

伊藤さとみ

お茶の水女子大学

要旨：中国語の語気副詞“可”は、現れる環境によって様々な語気を表す。伊藤(2022)は、これまでの研究を踏まえた“可”の語気を整理し、①叙述内容が事実であることの強調、②意外性、③程度の高さ、④望みがやっと叶ったこと、⑤切実な言い含めや希望、⑥疑問、⑦反駁、⑧先行文との対比、という 8 種類の語気にまとめ、3 名の母語話者への聞き取りを通して、この区別が母語話者間でかなり高い一致を示すことを明らかにした。今回の発表では、この分類をもとに、12 名の中国語母語話者の語気判断の結果とそれに基づく統一的分析の提案、及び、読み上げた音声分析の一部を紹介する。音声については、従来、③と④のみ強勢がある“可”であり、それ以外は強勢がないと言われているが、その違いがどの程度観察されるかを示す。

1. はじめに

中国語の“可”の表す語気については多くの研究がある。呂叔湘(1980)は、助動詞の“可”、副詞の“可”、接続詞の“可”、接辞の“可”があると指摘し、それぞれについて以下の意味を表すと述べた。

助動詞の“可”：許可、可能、価値があることを表す。

副詞の“可”：強調の語気または疑問を表す。

接続詞の“可”：逆接を表す。

接辞の“可”：形容詞を作る。

このうちの副詞の用法については、様々な語気を表すことがこれまでも指摘されてきた。本稿では、そのうちのいくつかについて、VERUM 演算子である可能性を示唆する。また、大きく分けて、程度副詞と語気副詞の二つのグループがあるとも言われ、その区別の根拠として強勢の有無が挙げられてきた。そこで、副詞の“可”について、程度副詞と語気副詞の区別が、音声の面で支持されるかどうかについて、現在の分析状況を紹介する。

2. 副詞“可”の語気

伊藤(2022)では、“可”の語気について提案された従来の説をまとめ、8 種類の語気にまとめた上で、実際に例文を母語話者に提示して、少なくとも 8 種類の語気が存在することを検証した。提案した 8 種類の語気は以下のとおりである。

(1) “可”の語気

1. 強調所述内容之真实性（叙述内容が事実であることを強調する）
2. 表示出乎意料の語気（意外性を表す）

3. 表示程度高（程度が高いことを表す）
4. 表示愿望终于实现（望みがやっとなうことを表す）
5. 表示恳切的叮咛和希望（切実な言い含めや希望を表す）
6. 表示疑问（疑問を表す）
7. 表示反驳（反駁を表す）
8. 表示该句与前一句相悖（その文が先行文と対立することを表す）

母語話者に提示した例文は、北京大学語料庫（CCL）から、本調査者が上記の語気のそれぞれについて一つ以上の例文が含まれるよう選定し、中国語母語話者のチェックを受けて確定した。なお、音声的な特徴を考察することを見据え、“可”の前後の音節の声調をある程度限定している。先行する音節は第 3 声と第 4 声に限定し、後続する音節の声調は第 1 声と第 4 声でミニマルペアができるように配慮したが、語気によっては適切なものが見つからず、第 3 声や“不”の変調が含まれている。

語気と声調に配慮して最終的に 21 例の“可”を含む文を抽出し、全部で 29 個の“可”を得た。伊藤(2022)の調査では、この 29 個の“可”について、中国語母語話者 3 名が 1.～8.のどの語気を表すかを回答した。回答の仕方については、1.～8.から主要な意味を選び、さらに任意で副次的意味を答えることを可とした。結果は表 1 のとおりである。

	3 名が一致	2 名が一致	全員異なる	合計
主要な意味のみ	12	14	3	29
主要／副次の区別なし	26	2	1	29

表 1. 語気助詞“可”の意味の選択調査結果（事前調査）

主要な意味について 3 名が一致したのは 12 例だったものの、26 個の“可”について、2 名が同じ語気を選んでいる。主要な意味と副次的意味の区別をなくし、選んだ語気について何人の話者が一致しているかを見ると、同じ 26 個の“可”について話者全員が同じ語気を選んでいる。そこで、この 26 個の“可”に、2 名が副次的意味として同じ語気を選んだ“可”を加え、全部で 27 個を本調査の対象とした。

本調査では、先に語気を判断した 3 名とは別の母語話者 12 名が回答した。回答の仕方は、一つの“可”について、該当すると思う語気を 1.～8.から一つだけ選ぶ点が事前調査とは異なっている。母語話者の出身地の内訳は、台北市、河南省／北京市、黒龍江省、山西省、浙江省／吉林省、石家荘市／江蘇省、広東省／山東省、吉林省、陝西省、河南省／遼寧省、四川省、北京市である（／はどちらにも住んだことがあることを示す）。年齢は録音調査時点で 25～30 歳であり、いずれも大学卒業以上の教育を受けている。

表 2 に各“可”の例に対する 12 名の語気選択状況を示した。左端の漢数字が“可”の例番号、上段が語気の種類、アラビア数字は 12 名中何名がその語気を選んだかを表す。赤い

セルは、12 名中 7 名以上が一つの語気を選択したものを示し、黄色は、同一の語気を選ぶ母語話者が 6 名より少なかった例を示している。

	1. 强调 所述内容 之真实性	2. 表示出 乎意料的 语气	3. 表示程 度高	4. 表示愿 望终于实 现	5. 表示恳 切的叮咛 和希望	6. 表示疑 问	7. 表示反 驳	8. 表示该 句与前一 句相悖
一	11	0	0	0	0	0	1	0
二	3	1	4	0	0	0	1	3
三	1	0	0	0	0	0	9	2
四	0	8	4	0	0	0	0	0
五	0	0	2	8	1	0	0	1
六	0	9	3	0	0	0	0	0
七	4	0	8	0	0	0	0	0
八	1	0	0	9	2	0	0	0
九	0	0	0	0	12	0	0	0
十	6	0	3	0	1	0	1	1
十一	8	1	2	0	1	0	0	0
十二	1	0	11	0	0	0	0	0
十三	1	0	0	0	0	0	8	3
十四	0	1	0	0	0	11	0	0
十五	0	0	0	0	12	0	0	0
十六	0	10	0	1	0	1	0	0
十七	1	2	9	0	0	0	0	0
十八	0	0	11	1	0	0	0	0
十九	5	0	2	0	0	0	0	5
二十	1	0	0	0	0	0	0	11
二十一	0	0	1	0	11	0	0	0
二十二	6	0	1	0	2	0	1	2
二十三	0	1	0	11	0	0	0	0
二十四	0	3	9	0	0	0	0	0
二十五	2	0	10	0	0	0	0	0
二十六	4	1	7	0	0	0	0	0
二十七	1	6	4	0	0	0	0	1

表 2. 語気助詞“可”の意味の選択調査結果（本調査）

この表から分かるように、27 例中 22 例について、母語話者 12 名中 7 名以上が同じ語気を選んでいる一方、二、十、十九、二十二、二十七については判断が分かれた。ただし、判断が分かれた 5 例を除外したとしても、各語気に対して一つ以上の“可”の例が得られている。以下、語気の順に例文全体を示す。

2.1 强调所述内容之真实性（叙述内容が事実であることを強調する）

一 爱因斯坦出席一次为他举办的正式宴会，来宾男的打白领带，妇女都穿裸肩的礼服，他的太太因感冒未曾同去，见爱因斯坦回家，急忙询问宴会的情形。他于是告诉她，今晚有几位著名的科学家出席。他的太太打断他的话，问：

“不要管那些，你告诉我太太们穿什么衣服？”

“我可真的不知道，”爱因斯坦认真地回答，“从桌子以上的部分看，她们没有穿什么东西；而在桌子以下的那部分，我可不敢偷看。”

十一 “如果李先生不介意的话，我想先去林府拜访一下。来的时候，雁雁的外婆，还有她舅妈，托我带了些东西给她……”

“东西好办，我派人给送去。”

“不，不，不麻烦李先生了。我答应了外婆，要亲自送去的。”

“哦，好吧，明天早上我给您安排车。”

“不必了，不必了，老人家特别带了些点心，都是雁雁爱吃的。我想，最好是今天送到，否则，怕不新鲜了。这事要是办不好，回去我可是要挨老太太骂的啊！”

“哦，就是不知道现在她家里有没有人，要不要我先打个电话？”

“太好了，那就有劳李先生了。”

林雁冬家的电话号码，李杰明是熟记在心的，拿起电话，就飞快的拨了号。

2.2 表示出乎意料的语气（意外性を表す）

四/六 我和尼克想着这件会让母亲感到出乎意料的事，越想心里越激动。我们把这事对父亲说了。他听了得意地抚摩着我们的头。

“这可是个好主意，”他说，“它会让你们的母亲高兴得合不上嘴的。”

从他的语气里，我们听得出他在想着什么。在他们一起生活中，父亲能够给予母亲的东西真是太少了。母亲一天到晚操劳不停：既要做饭，又要照料我们，还要在浴缸里洗我们全家人的衣服，而且对于这一切活儿都毫无怨言。她很少笑。不过，她要笑起来，那可就是不负我们盼望的赏心乐事。

“你们打算给她送什么礼物？”父亲问。

“我们俩将各送各的礼物，”我答道。

“请您把这事告诉给母亲”尼克对父亲说，“这样她就可以乐呵呵地想着它了。”

父亲说：“这样一个了不起的想法，竟出自你这么个小脑袋瓜儿里，你可真聪明！”

十六 那是 1967 年春节的一个夜晚，天黑黑，雪茫茫，我警惕地看清家门周围没人，便按了门铃。自父母被揪斗起，院子里就不再有灯光，铃声只有楼里听得见。一会儿，阿姨来开门，她看是我，惊得一愣，一把把我拉进门，低声道：

“谁让你回来的？”不容我说，她拉着我大步进了楼又说道：“造反派闹得很凶，天天有人来抄家，你爸妈也不知叫造反派揪到哪里去了，只有开批斗会的时候，才知道在谁手里。造反派正到处找你们，说要斩草除根，你就回来了。”

“我想家，不知家里怎样了？”我话没完，只听铃声大作。

“坏了，造反派又来了。”阿姨说着拉我急奔后院锅炉房。

2.3 表示程度高（程度が高いことを表す）

七、十二、十七、十八、二十四、二十五、二十六が該当するが、詳細な議論は次節で行う。

2.4 表示愿望终于实现（望みがやっとなうことを表す）

五 我和尼克想着这件会让母亲感到出乎意料的事，越想心里越激动。我们把这事对父亲说了。他听了得意地抚摩着我们的头。

“这可是个好主意，”他说，“它会让你们的母亲高兴得合不上嘴的。”

从他的语气里，我们听得出他在想着什么。在他们一起生活中，父亲能够给予母亲的东西真是太少了。母亲一天到晚操劳不停：既要做饭，又要照料我们，还要在浴缸里洗我们全家人的衣服，而且对于这一切活儿都毫无怨言。她很少笑。不过，她要笑起来，那可就是不负我们盼望的赏心乐事。

“你们打算给她送什么礼物？”父亲问。

“我们俩将各送各的礼物，”我答道。

“请您把这事告诉给母亲”尼克对父亲说，“这样她就可以乐呵呵地想着它了。”

父亲说：“这样一个了不起的想法，竟出自你这么个小脑袋瓜儿里，你可真聪明！”

八 1938 年 4 月，正当小爱琴被痛苦的生活折磨得筋疲力尽，痛不欲生，眼看支持不住的时候，养母和一陌生男子突然出现在她面前。见到久别的亲人，爱琴忍不住扑进妈妈的怀抱，失声痛哭起来。这些年所受的苦，此时此刻才能尽情地倾诉、宣泄出来！养母将爱琴紧紧地搂在怀里，一边流泪，一边安慰道：

“孩子，别哭了，妈妈这就带你回家。”

这是真的吗？爱琴有些疑惑地看着妈妈，养母点点头，又跟婆婆交待了几句话，然后真的带着她走出了婆婆家。这时的爱琴，高兴得就像出了笼的小鸟一样。养母和同来的人领着爱琴先到照相馆照了一张相，又给她买了一身新衣服。养母高兴地对爱琴说：

“孩子，这回你可真的要回到自己的家了，以后再也不会挨打受气了！”

二十三 第二天早上，姑姑莉莎独自一人守在爸爸的病房里。大约 7 点钟，坐在病床边的她听到说话声。开始她以为是自己的幻觉，可接着她就惊呆了。七年昏迷不醒的加利弟弟正在抱怨说：毯子太沉了。

莉沙姑姑抓起电话就喊奶奶：“妈妈！加利说话了！加利说话了！”接着她把话筒放到爸爸耳边，奶奶说：“是加利吗？”

爸爸答道：“妈妈！”

奶奶又说：“加利，我的好儿子，你在说话！你可说话了！”

爸爸说：“当然了。”

这是自 1988 年 9 月 17 日起爸爸受伤以来，他说的第一句话。

2.5 表示恳切的叮咛和希望（切実な言い含めや希望を表す）

九 末了，罗维民只问了一句：

“小赵，能不能告诉我谁跟你这么说的？”

赵中和在罗维民的脸上看了一阵子说：

“我告诉你，你可千万别找到人家头上去。你这人，脾气一上来，就什么也不顾了。再说，这也不是哪个个人的行为，人家一再给我说，这确实不是他个人的意思，是组织的意思，他是代表组织在给我谈话。你要是传出去，古城监狱我可是没法呆了。”

十五 房子收拾好不久，冬天就到了。开田用剩下的碎木料又打了八张简易床，在新房的東西套间里各放了四张；又用家里过去积下的高粱秆织了八领箱，去舅家表哥那儿又借了点钱买了八床褥子，让暖暖和娘缝好了八床被子。当这一切收拾好后，开田和暖暖开始焦急地等着北京谭老伯的消息，他们现在最怕的就是谭老伯改变主意。天哪，你可是一定要来，你要不来，我们这日子怕是都过不成了，投入的东西太多了！快到学校放寒假那些天，开田和暖暖吃不下睡不好，一天几遍地跑到丹湖边的小码头上去看，只怕谭老伯不来了。

二十一 我反驳说：

“人要走自己的路。你既不让我们挣钱，又不让我们当官，连写东西赚点稿费也不让，那我们在这个社会上怎么立足呢？”我接着又调侃地加了一句：“爸爸你又不能保我们一辈子。”

爸爸沉默了。

又隔了几天，爸爸对我说：

“既然你们愿意走自己的路，我不反对，不过你可要记住，文责自负，出了事我可不管啊！”

从此以后，爸爸再也没提出一句关于写作的事。我知道，他从内心讲是仍不同意我爱人搞文艺创作的，但他能理解我们，继而支持我们，这已是相当可贵了。

2.6 表示疑问（疑問を表す）

十四 因此，他的笑容突然从脸上冻结了，声音也冻结了，冷冷地撒开了谢小玉的手，冷冷地

道：“你真是谢晓峰的女儿？”

谢小玉吃惊地望着他，不知道是什么原因使这个男人变得冷漠了。她只有惶恐地回答道：“是……是的！”

丁鹏更冷地道：“可是别人都说谢晓峰没有女儿。”

谢小玉笑了起来道：“家父行事很少为人所知，神剑山庄更少有人前去，别的人怎么会知道？”

丁鹏冷笑道：“名满天下的谢家三少爷自然是不屑与俗人来往的！”

谢小玉忽然明白了笑道：“你可是因为我父亲没有接受你的邀请而生气？”

“不敢当，我只是顺便发了张帖子给他，并没有想他真会来的。”

谢小玉道：“这一点你要原谅他，多少年来，家父已经谢绝酬酢，连多少年的老朋友，他都避不见面了。”

2.7 表示反驳（反駁を表す）

三 “你急需动眼，动脑，不是动手。天黑了，人们说晚上了。作为艺术家，不仅要知道是晚上，更要知道晚上的天为什么会黑。”

“我可不是天文学家。”

“艺术家必须具备科学家的思维能力，公正，客观，找出事物的本质。艺术家与科学家是同一屋檐下两个不同的名称……”

他这么说我倒是想起了笛卡尔与斯宾诺莎。

十三 几十年过去了，朱老总想起那些永远长眠在长征路上的烈士，仍抑制不住满腔悲痛。红军第五次反围剿的失败，使他难压心头怒火。他戴上“空姐”送来的眼镜，很仔细地查看着地图。

“嗨，这些地方我可是太熟悉了，我来给你们领航。”

“老总，空中领航与地面带路可不是一码事，你可领不了。”

“那有什么不同？不管天上还是地下，都得认识路，不然的话怎么走？那就会绕圈子的。”

朱老总一本正经的样子，把我们逗得大笑起来。

2.8 表示该句与前一句相悖（その文が先行文と対立することを表す）

二十 她几乎每夜打字要打到两点，我觉得这人非常认真，是少见的女孩子，心里很赞赏她，打字也是必须做的事情，我根本没有放在心上。这样的生活，我总是等她夜时收班了，才能静下来再看一会书，然后睡觉。过了很久，我维持着这个夜程表，绝对没有要去计较这个同学。

有一夜，她打完了字，我还在看书，我听见她开门了，走过来敲我的门，我一开门，她就说：

“你不睡，我可要睡，你门上面那块毛玻璃透出来的光，叫我整夜失眠；你不知耻，是要人告诉你才明白？嗯？”

これらの“可”の働きは、VERUM 演算子として分析できるかもしれない。VERUM 演算子は、英語の“really”、ドイツ語の“doch”の意味として提案されたものである。Romero and Han (2004)によると、VERUM 演算子は、命題 p を取る会話の認識的演算子であり、p が真であると受け止められるべきである、または、共通基盤に追加されるべきだと話し手がみなしていることを表す。Romero and Han (2004)が VERUM 演算子に対して与えた意味論は以下のとおりである。

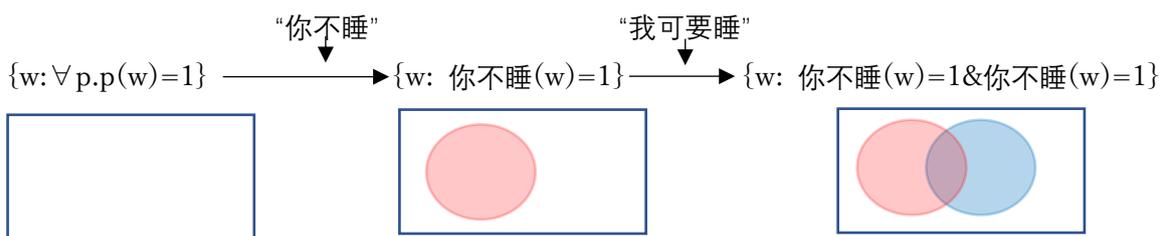
$$(2) \quad [[\text{VERUM}_i]]^{g[x/i]} = \lambda p \langle s, t \rangle \lambda w. \forall w \in \text{Epi}_x(w) [p(w) = 1]$$

$$(3) \quad [[\text{VERUM}_i]]^{g[x/i]} = \lambda p \langle s, t \rangle \lambda w. \forall w \in \text{Epi}_x(w) [\forall w \in \text{Conv}_x(w) [p \in \text{CG}_w]]$$

(Romero and Han 2004:626-7)

(2)の定義する VERUM 演算子は、命題 p を取り、ある可能世界 w から認識的に接近可能な可能世界において、p が真であると述べる働きをする。(3)の定義では、同様の可能世界の制限に加えて、話し手と聞き手の会話の共通基盤 (CG) に p が含まれると述べる働きをする。この定義は、動態意味論の枠組みでなされているので、以下、簡単に動的意味論における真理値などの考え方について述べる。

まず、会話ないし談話の始まりは、モデル的に言えば無限の可能世界の集合である。そこに情報が加わるにつれ、その情報に矛盾する可能世界が除かれていく。よって、会話の共通基盤 (Common Ground) とは、すでに会話の中で断言された命題やその前提などで得られた情報と矛盾のない可能世界の集合である。共通基盤に命題を追加するとは、可能世界の集合を当該命題に矛盾しない世界に限定することである。



“可”が VERUM 演算子かどうか議論を戻し、以下、各語気ごとに解説をする。2.1 に“1. 强调所述内容之真实性(叙述内容が事実であることを強調する)”の例として挙げた 2 例は、聞き手が「話し手は奥様達がどのような服を着ていたか知っている」ことを前提としていたり、聞き手の申し出「李雁冬に贈り物を明日車で届けるよう手配する」がすでに文脈に追加されたりしている。当該命題を共通基盤に加えることで、これらの前提や申し出を排除している。2.2 に“2. 表示出乎意料的语气 (意外性を表す)”の例として挙げた 3 例は、話し手がそれまで予想してなかった事柄や事態の出現に対し、共通基盤において当該の事柄や事

態が真になったことを述べている。2.4 に“4. 表示愿望终于实现（望みがやっとなうことを表す）”の例として挙げた 3 例も、新しい事柄や事態の出現を述べ、それらが共通基盤に追加されたことを述べている。2.5 に“表示恳切的叮咛和希望（切実な言い含めや希望を表す）”の例として挙げた 3 例は、話し手の要望を話しており、共通基盤の中にこの命題を入れることを聞き手に要請している。2.6 に挙げた“表示疑问（疑問を表す）”の例は、疑問を表すのは、おそらく文末の上昇調（? で表されている）であり、“可”自体は当該命題を共通基盤に入れてよいかどうかを確認している。2.7 に“表示反驳（反驳を表す）”の例として挙げた 2 例は、聞き手の信じることに對し、当該命題を持ち出して反論しているのであり、共通基盤に当該命題を追加することで、この命題と両立しない命題、つまり聞き手の信念を排除している。2.8 に挙げた“表示该句与前一句相悖（その文が先行文と対立することを表す）”の例は、先行命題が追加された共通基盤においても、当該命題も真であることを述べていると言える。まとめると、“可”は、当該命題が、その文脈において真であることや、その命題を共通基盤に追加すべきだと述べていると言える。

以上の考察は、“可”の用法と VERUM 演算子が矛盾しないことを示しているが、“可”が VERUM 演算子であることを断定するものではない。今後、他の言語の VERUM 演算子（英語の“really”、“be sure to”、ドイツ語の“doch”、“ya”など）との比較を通して、その働きをより明確にする予定である。

3. “可”の程度副詞用法と語気副詞用法について

“3. 表示程度高（程度が高いことを表す）”と母語話者に判断されたものには、七、十二、十七、十八、二十四、二十五、二十六がある。以下、例を示す。

七 为维持农场的存在，总得作点什么给人们瞧瞧，所以每年必开一次农品展览会。职员们在开会以前，对铁牛特别的和气。

“王先生，多偏劳！开完会请你吃饭！”吃饭不吃饭，铁牛倒不在乎；这是和农民与社会接触的好机会。他忙开了：征集，编制，陈列，讲演，招待，全是他，累得四脖子汗流。

有的职员在旁边看着，有点不大好意思。所以过来指摘出点毛病，以便表示他们虽没动手，可是眼睛没闲着。铁牛一边擦汗一边道歉：

“幸亏你告诉我！幸亏你告诉我！”

对于来参观的农民，他只恨长着一张嘴，没法儿给人人掰开揉碎的讲。有长官们坐在中间，好象兔儿爷摊子的开会纪念像片里，十回有九回没铁牛。他顾不得照像。这一点，有些职员实在是佩服了他。所以会开完了，总几位过来招呼一声：

“你可真累了，这两天！”

铁牛笑得象小姑娘穿新鞋似的：“不累，一年才开一次会，还能说累？”

十二 几十年过去了，朱老总想起那些永远长眠在长征路上的烈士，仍抑制不住满腔悲痛。红

军第五次反围剿的失败，使他难压心头怒火。他戴上“空姐”送来的眼镜，很仔细地查看着地图。

“嗨，这些地方我可是太熟悉了，我来给你们领航。”

“老总，空中领航与地面带路可不是一码事，你可领不了。”

“那有什么不同？不管天上还是地下，都得认识路，不然的话怎么走？那就会绕圈子的。”朱老总一本正经的样子，把我们逗得大笑起来。

十七 / 十八 昨天晚上，我放学回来以后，邮递员来了。他给我带来一个包裹，里面是外婆给我的礼物。这个礼物可了不得啦，保证你猜也猜不到：是一只手表！太棒了！

…省略…

妈妈叫我上床睡觉。我想戴着手表睡觉，可妈妈说这样对手表不好。我就把手表放在床头桌上，这样只要我一翻身就能看到它。后来，我听见大门开了：是爸爸回来了。我可高兴了，因为我能给他看看外婆给我的礼物。我下了床，把手表戴好，从房间里跑出来。

二十四 汪霞悟过未来，心里挺后怕。她暗暗地责备自己：“为什么和敌人打交道，这么天真？这么没有见识？”

“对敌人可不能像对同志那样相信。你今天老实得差一点在敌人面前丧失了警惕！这可真危险。”一场短兵接火获胜的刘文彬，用事实教育着汪霞。刘文彬看问题的深远，使得汪霞打心眼里佩服。在她说，今天又算上了一堂课。

二十五 二十年来的差事，没作过什么错事，但我就这样卷了铺盖。弟兄们有含着泪把我送出来的，我还是笑着：世界上不平的事可多了，我还留着我的泪呢！

二十六 “四方街”是纳西族文化的集中反映，已有 800 多年历史，云南省专门立法保护以其为主体的丽江大研古城。2 月 3 日的大地震使这里遭受了重大损失，大部分房子已震裂，约 1 / 10 的屋子倒塌。77 岁的纳西族妇女石莲弟依旧静静地坐在家门前临时搭起的床铺上，喃喃而语：

“震得太厉害了。”她指着已经倒了两面墙的屋子，心疼地说：

“这可是几百年的房子了。”

これらの例の表す語気として、“3. 表示程度高 (程度が高いことを表す)” が選ばれたのは、予想外であった。従来、程度の高さを表す“可”は、程度副詞に分類され、以下の特徴があるとされている。

基準 1 “真”と連用できない。

基準 2 形容詞または心理動詞を修飾する

基準 3 強勢が置かれる

基準 1「程度副詞の“可”が“真”と連用できない」という点に関しては、楊安珍(2017)、熊慧慧(2020)に言及がある。基準 2「形容詞または心理動詞を修飾する」という点に関しては、“可”に限らず程度副詞の定義として、形容詞または心理動詞を修飾することから導かれる。基準 3「強勢が置かれる」という点については、楊惠芬(1993)の研究に、“3. 表示程度高(程度が高いことを表す)”と“4. 表示愿望终于实现(望みがやっとなうことを表す)”場合の“可”は、強勢を持つと言及がある。他にも、罗晓英・邵敬敏(2006)、蒋协众・魏会平(2008)では、強勢を持つ“可”は誇張の語気を帯びた程度副詞としてその修飾する形容詞や心理動詞句の表す属性の程度が高いことを表すと述べており、李善婧(2009)、李冬梅(2014)などの“可”の語気の種類についての研究でも、程度副詞と語気副詞の“可”を分ける基準として言及されている。

そこで、本調査において母語話者が“3. 表示程度高(程度が高いことを表す)”と判断した例文がこの基準に合致するかを見る。母語話者 12 名中 7 名以上が程度を表すと判断した例のうち十七、十八、二十五は上記の基準 1 と基準 2 に合っているが、七と二十四は“真”を伴っていて、上記の基準 1 に反する。十二と二十六は“是”を修飾しており、形容詞や心理動詞を直接修飾してはいない。

(4) “真”と連用されておらず、形容詞を修飾している

- 十七 这个礼物可了不得啦,
- 十八 我可高兴了,
- 二十五 世界上不平的事可多了,

(5) “真”と連用されているが、形容詞を修飾している。

- 七 你可真累了, 这两天,
- 二十四 这可真危险。

(6) “是”を修飾している。

- 十二 这些地方我可是太熟悉了,
- 二十六 这可是几百年的房子了。

ただし、“真～”にも程度を想定することはでき、“是”の後にも程度を想定した表現が現れていることから、“可”の後に程度のスケールを持つ形容詞述語や数のスケールを持つ数量表現が現れていると言える。そこで、従来の基準を修正するならば、何らかの形で程度を含有する述語であれば、“真”であれ、“是”であれ、程度が高いことを表すと言える。

基準 3「強勢が置かれる」については、従来の研究では、「強勢」の厳密な定義はされて

いない。そこで、本稿では、強勢についてまず定義する。

Catford(1988, 2001)によると、強勢は、肺気流の圧力ⁱ、即ち、音の強さという点で定義され、音の高さ（物理量としては基本周波数の高低、聴覚的高低としてはピッチ）は発声の特徴の一つに過ぎず、音節の持続時間は調音の特徴の一つであって、強勢を構成する主たる要素ではないと述べている。ただし、これは英語の語彙レベルでの強勢を念頭に置いたものである。一方、Selkirk(1996)は、英語の文音調における強勢と焦点の対応を指摘する中で、音の高さを強勢の要素の一つであると考えている。このように、一つの言語の研究においても強勢の概念は必ずしも一致していないが、さらに言語によっては、様々な要素が強勢を構成すると考えられている。中国語については、主に焦点との関連で研究が進められてきた。

石鋒等（2022:31）は中国語の韻律を数値化する方法として以下の三つを挙げている。

- i. “音長比”：当該音節の音が持続する時間を文全体の持続時間で割ったもの
- ii. “音量比”：当該音節の音の強さを文全体の音の強さの平均で割ったもの。
- iii. “起伏度”：当該音節の占めるピッチレンジを文全体のピッチレンジで割ったもの

この定義の上で、石鋒等（2022）は、中国語の焦点を示す音声的特徴は、焦点が置かれた語の最後の音節の持続時間が長くなり（“音長比”の増加）、同じく焦点が置かれた語の最後の音節の強さが強くなり（“音量比”の増加）、語全体のピッチレンジが広がる（“起伏度”の増加）ことによって特徴づけられると述べている。さらに、焦点が置かれた語の前の音節が上記の i. ~iii. の数値について減少すること（Pre-Focus Compression）、焦点が置かれた語の後の音節が上記の i. ~iii. の数値について減少すること（Post-Focus Compression）を観察している。ただし、上記の i. ~iii. が等しく焦点の韻律であるとする石鋒等（2022）に対し、必ずしもすべてが均等に貢献するものではないと考える立場もあり、例えば、马秋武(2017)は、ピッチレンジの広がり为主要な音声的特徴であり、音節の持続時間が長くなることは補助的な使用であると述べている。

Gårding (1987)、Jin(1996)、Xu(1999)、Peng et al. (2006)、Li(2009)によると、中国語の焦点を置かれた要素は、以下の音声的特徴を持つ。

- a. 当該語のピッチレンジの増大
- b. 当該語の持続時間の伸長
- c. 当該語前後の音声的特徴の弱化（Pre/Post-Focus Compression）

本調査では、“可”が含まれる文は、北京大学語料庫から採用しており、沈炯(1985)が提案したような、例文の声調をすべてそろえた実験や、Gårding (1987)をはじめとする有声音のみで例文を構成した実験とは異なる。そこで、これらの研究の成果を参考にしながら、本調査で計測できるものとして、語の持続時間、最小ピッチ、強さについての数値を抽出した。

まず、語の持続時間の伸長は、焦点の強勢の研究の中で、石鋒等 (2022) の研究でも、Gårding (1987) 以降の研究でも、強勢を構成する要素の一つとして指摘されている。語の最小ピッチのみを問題にしたのは、“可” が第 3 声であり、これに焦点が置かれるときは、最小ピッチの低下が顕著になるためである。従来の研究では、焦点が置かれた語全体、多くは多音節の語の全体について、ピッチレンジの増大が指摘されているが、“可” については、これが焦点になるわけではなく、またそれ自身が単音節であるため、ピッチレンジを測るよりも最小ピッチの方が強勢の特徴をよく表すと考えた。強さについては、石鋒等 (2022) の焦点についての研究で言及がある。なお、“可” の前後の音声的特徴の弱化については、それぞれの例の前後の音節を統一していないため、計測することができない。

音声の採取は以下のように行った。語気判断調査に参加した母語話者に、“可” を含めた原稿を読み上げてもらい、“可” の部分の音声的特徴を取り出した。本発表では、12 名全員の分析はまだ完成していないので、話者 1 番と話者 12 番の 2 名についてのみ紹介する。“3. 表示程度高 (程度が高いことを表す)” と “4. 表示愿望终于实现 (望みがやっとなうことを表す)” のグループとそれ以外のグループで、“可” の発声される持続時間、最小ピッチ、強さの平均を調べた。結果は以下のとおりである。

“可” の特徴	持続時間	最小ピッチ	強さ
3 と 4 以外の平均	0.11	173.57	59.57
3 と 4 の平均	0.11	164.03	61.40

表 3. 話者 1 番の “可” の音声的特徴

“可” の特徴	持続時間	最小ピッチ	強さ
3 と 4 以外の平均	0.11	176.09	68.26
3 と 4 の平均	0.12	163.65	69.80

表 4. 話者 12 番の “可” の音声的特徴

3 と 4 の音声とそれ以外の音声について、このデータを見る限り差はわずかだが、音節の長さが長く、最小ピッチは低く、強さは強い傾向はみられる。今後、残りの 10 名の分析も行って、統計的に有意であるかどうかを確かめる予定である。

4. まとめ

以上、副詞の “可” の持つ 8 種類の語気について、母語話者に調査を行い、22 例につい

て、母語話者の語気判断がかなり一致することを見た。さらに、この 22 例をもとに、“可”を VERUM 演算子とみなしても矛盾しないことを示した。最後に、2 名の母語話者の音声について、“可”の特徴を計測し、“3. 表示程度高（程度が高いことを表す）”と“4. 表示愿望终于实现（望みがやっとなうことを表す）”と他の語気を比較すると、前者二つが強勢の特徴を持つことを見た。

<参考文献—英文文献、中文文献、和文文献の順>

Gårding, Eva. 1987. Speech act and tonal pattern in Standard Chinese: constancy and variation. *Phonetica* 44(1).

Jin, Shunde. 1996. *An Acoustic study of sentence stress in Mandarin Chinese*. Doctoral dissertation, Ohio State University.

Li, Kening 2009. *The information structure of Mandarin Chinese: Syntax and prosody*. Doctoral dissertation, University of Washington.

Peng, Shu-hui, Marjorie K. M. Chan, Chiu-yu Tseng, Tsan Huang, Ok Joo Lee, and Mary E. Beckman 2006. “Towards a Pan-Mandarin System for Prosodic Transcription.” In Jun, Sun-Ah (ed.) *Prosodic Typology*. 228-270 (Chapter 9).

Romero, Maribel and Chung-Hye Han 2004. “On negative yes/no questions.” *Linguistics and Philosophy* 27: 609-658.

Selkirk, Elisabeth. 1996. Sentence prosody: intonation, stress and phrasing. In J. A. Goldsmith (ed.). *The Handbook of phonological theory*. Blackwell: London.

Xu, Yi. 1999. Effects of tone and focus on the formation and alignment of f0 contours. *Journal of phonetics* 27(1).

蒋协众、魏会平 2008 〈副词“可”的词类划分及其轻重读规则〉《殷都学刊》2008 年, 112-117。

李冬梅 2014 〈副词“可”的义项分析〉《大庆师范学院学报》第 34 卷第 5 期, p. 81-84。

李善婧 2009 〈语气副词“可”的语义指向分析——兼论“可”的语义指向分析〉《现代语言（语言应用研究）》2009. 01, 65-68。

罗晓英、邵敬敏 2006 〈副词“可”的语义分化及其语用解释〉《语言学研究》总第 121 期, 2006 年第 2 期, 102-109。

马秋武 2017 〈汉语语调焦点重音的韵律实现方式与类型〉《韵律语法研究》第二辑（第 1 期）。

沈炯 1985 〈北京话声调的音域和语调〉林焘 王理嘉等著《北京语音实验录》北京：北京大学出版社。

石锋 编著 2022 《韵律格局——语音和语义、语法、语用的结合》北京：商务印书馆。

熊慧慧 2020 〈语气副词“可”的语义差异及内在联系〉《江西电力职业技术学院学报》第 33 卷第 9 期: 138-142。

杨安珍 2017 〈简析现代汉语副词“可”〉《商丘职业技术学院学报》2017 年第 2 期, 62-65。

杨惠芬 1993 〈副词“可”的语义及用法〉 《世界汉语教学》1993 年第 3 期（总 25 期），173-178。

伊藤さとみ 2022 「中国語の副詞“可”の語気」 『お茶の水女子大学中国文学会報』第 41 号、57-79。

ⁱ 単位面積を通過する音波が持つ単位時間当たりのエネルギー量を最小可聴音との比の常用対数によってあらわした数、単位はデシベル。